

【校長室便り】 No, 27

H30年10月10日(水) 土佐町小中学校 谷内宣夫

『世界がもし100人の村だったら3-たべもの編』①



さんまの塩焼きにさといもの煮っころがしあとはご飯と味噌汁と漬物。これが4~50年前の日本のありふれた夕ごはん。1人が一年に112キログラムの米を食べていました。今の2倍です。貧しい食事だと思いませんか?でも、このころの日本は、食べ物の80%近くを自分たちでつくっていました。そして21世紀になりました。世界には65億人の人がいますが、もしもそれを100人の村に縮めて(たべもの)のありかたをみるとどうなるでしょう。100人のうち47人は農村に、53人は都市に住んでいます。畑を耕したり、家畜をそだてたりしてたべものをつくらしている人は20人です。15人がアジア人、3人がアフリカ人、2人が南北アメリカ人やヨーロッパ人などです。20人のうち13人はトラクターで、7人は人の力で耕しています。村人は食事エネルギーの半分以上を穀物からとっています。100人の村びとのうち50人は米を、26人は小麦を、7人はとうもろこしを、あとはいも類などを主食にしています。

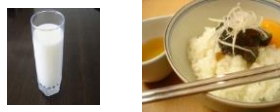


村びと100人のうち16人は、1年を110万円以上で暮らし、いろいろなものをたくさんたべています。



そのうち2人は日本の人で、1年を平均360万円で暮らしています。43人は、1年を64万円で暮らし、きちんとたべています。41人は、1年を8万円以下で暮らし、ときどきしかたべられません。そのうち12人は戦争や、干ばつや洪水や砂漠化の

ためにいつもお腹をすかせています。



この12人のうち、3人は、インド、2人は、中国、3人は、ほかの地域のアジア、3人は、サハラ以南のアフリカ、1人は、ラテン・アメリカに住んでいます。その多くは、農村の女性や子どもです。

村びとの平均寿命は女性が69歳で男性が64歳です。

村いちばんの長生きは、日本の女性で86歳です。でも、サハラ以南のアフリカの人々の寿命は50歳にとどきません。



村びと100人のうち33人はビタミンやミネラルが足りないために、思うように働いたり遊んだりできません。70人は鉄分が足りません。途上国では、妊娠している女性の半分以上が鉄分不足です。そのため、お産のときにたくさんのお母さんや赤ちゃんが亡くなります。



100人のうち14人は太りすぎです。アメリカの大人を100人とするすると60人は太りすぎです。そのうち14人は超肥満です。アメリカの子どもを100人とするすると25人が太りすぎです。

100人のうちたべものをたくさんつくって他の人に売っている人は48人です。足りなくて買っている人は52人です。

100人のうち、1人にみえないアメリカの農民が、41%の大豆、38%のとうもろこしをつくらしています。



アメリカは村いちばんの穀物輸出国です。

この村には20人の中国人がいます。そのうち、14人が農民です。この14人が、村全体の半分ちかくの野菜をつくらしています。キャベツ、トマト、たまねぎ、きゅうり、にんじん、すいかなどです。卵、米、肉類、いも類も、中国の農民がいちばんたくさんつくっています。それでも、中国はこの村で2番目にたくさんのたべものを輸入しています。



世界がもし100人の村だったら、1年のあいだに75人は20キロの、25人は80キロの肉をたべています。1人が1年に食べる肉は、インドでは5キロ、中国では45キロですが、イタリアでは80キロです。1人が1年に食べる卵は、インドでは30個、アメリカでは174個、日本では226個です。



この村でとれる魚を100尾とするすると、18尾を中国が、9尾をペルーが、5尾をアメリカが、5尾を日本が、5尾をインドネシアがとっています。でも、魚のとりすぎのため、村の4分の3の漁場で魚がへってきています。また村びとは50尾の養殖の魚もたべています。養殖の魚はせまいところでそだてられ脂がのりやすい餌をあたえられます。いろいろな薬もあたえられます。



つづく